

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530667

研究課題名(和文) ラオス村落における慣習的土地所有の実態と変遷

研究課題名(英文) Current status of land use in changing society : rural Laos

研究代表者

藤村 美穂 (Fujimura, Miho)

佐賀大学・農学部・准教授

研究者番号：60301355

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：3年間の調査のなかでとくに注目したのは、A,複合的な利用を含む慣習的土地利用の実態と変遷(特に水田漁撈)、B,子供や高齢者など身体的、社会的弱者のフードセキュリティと栄養状態である。調査の結果、A、村の人口増大による土地の開墾や県全体の森林開発によって、自然資源が変化している一方で、慣習的に行われてきた半構造物を伴う水田漁撈(Loum-pa)の利用は現在も活発に行われ、新たな展開の可能性も見られること、B,高齢者や子供の魚の栄養状態も近隣の少数民族に比べるとよいのは、水田漁撈に関わる社会的慣行の影響もあることが推察された。また、水田漁撈活動をとおして家や村の構造も推察することができた。

研究成果の概要(英文)：Our main focus is on multilayered land use: especially paddy field aquaculture using fish ponds known as Loum-pa in Laotian, and conditions of food security and nutritional status. Loum-pa refers to a fish pond made by digging a hole in a paddy field. It is used to rear fish during the dry season. Each household in the village owns some Loum-pa. In recent years, there has been a rapid change in lifestyle in our survey area. Working at rubber plantation began in recent years has resulted in introduction of a monetary system within the village. We could clarify the paddy field aquaculture system of the Ouy people, customs and inheritance of Loum-pa, and we found that Loum-pa is very important for them still now and it has great potential to complement the livelihood activities in this changing society.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：Laos 土地利用 生業 水田漁撈 フードセキュリティ

1、研究当初の背景

本研究は、研究代表者が村落研究の一環として取り組んできた以下の二つの大テーマのなかに位置づけられるものであり、当初からの研究課題は、東南アジア村落の環境管理についての基礎調査であるとともに、これらの大テーマにめけて考察を進めるためのデータ収集でもある。(1)近代における市場経済化や環境変容への対処(とくに農業など土地利用上の対応)、それを方向付ける社会・経済的要因について考えるための方法論や視点づくり、(2)生態系とのかかわり方や、社会的な役割分担意識や社会経済的状况に注目して、照葉樹林地帯を中心としたアジアの農山村における土地利用の方向性のなかで、西日本の農山村(とくに山村)の位置づけを考える。

この大きな目的のうち、とくに本研究では、ラオス南部農村を調査対象として、(1)の課題について基礎的な研究をすすめる予定であった。対象としてラオス南部の農村を選んだのは、以前から調査を続けてきた村であることに加えて、低地移住政策からはじまり、貨幣経済の浸透、自然災害や気象異変(による食糧不足)、人畜の感染症の発生、国境を越えた人口移動(例えばベトナムのプランテーション農場開発)、海外からの援助プロジェクトの導入などに伴って、生活が急激に変化しつつある。これらに伴って、土地利用、耕地の分配問題など様々な側面で葛藤が生じることも予想されたためである。また、調査対象とした村落は、政治的な理由によって移住を余儀なくされてきた一方で、水田稲作の長い伝統をもつ村落であるため、生産にかかわる村落組織の変遷も考察することができると考えられた。

2、研究の目的

- (1) 調査対象としたインティ村(アタブー件、サナムサイ郡: オイ族で構成される村)の生産活動の実態を明らかにする。
- (2) 土地や資源の利用・分配(相続を含む)に関する社会的なルールの内容、身体観について明らかにするとともに、近年の変化についても明らかにする。
- (3) 調査の過程で明らかになってきた村の大きな特徴、水田漁撈システムに注目し、その構造を明らかにするとともに、伝統的な水田漁撈が、土地利用や人間関係や食物摂取や行動規範などに及ぼす影響を考察する。
- (4) インティ村(調査対象村)の子供や高齢者などの身体的・社会的弱者を対象に、ブーホン村(ブラウ族)との比較のうえで、フードセキュリティと栄養状態を調査し、栄養的側面から生産活動の特徴を考察する。

3、研究の方法

調査は主に、雨季(8~9月)、または乾期(2~3月)のどちらかに、2週間程度の滞在を繰り返すことによって行った。本研究では、村落構造や生産活動、土地利用についての前提知識を得るために多くの情報を必要とした。そのため、方法も多様な方法を用いている。主な方法は下記のとおりである。

- (1) 行政資料(行政区域、農業関係データ、人口データ、健康関連データ)の収集を試みた。
- (2) 慣習や村の生産活動の歴史については、村長などの役職者および古老に対して、健康や栄養に関することについてはヘルスセンターのスタッフなどから聞き

取り調査を行った。

- (3) 農業歴や周辺の自然資源の利用や管理、相互扶助や交換（食物）の実態、健康・身体観などについては、男女混合、または男女別に、フォーカスグループディスカッションを行った。
- (4) 水田、家畜、養殖池、世帯の食事、個人の慎重や体重など、世帯別個人別のデータをとるために、質問紙を用いた世帯調査を行った。
- (5) とくに、土地利用や水田漁撈についての調査研究（研究代表者）と、栄養状態についての調査研究（研究分担者）のあいだの情報交換や討論を入念に行った。

4、研究成果

予定した聞き取りや資料収集のうち、行政資料の入手ができなかったため、村全体の経済生活の状況を把握するための基礎的なデータの収集（人口や家族数や所有農地などの状況）を行ったところ、人口よりも世帯数の増加が著しいことがわかった。これは、均分相続を行うため、子供が結婚後も同じ村内にとどまる傾向が強いことが大きな要因として考えられる。

生産活動については、水田稲作を基軸としながらも、森や山、季節的な湿地などを利用した多様な生産活動を行ってきたことがわかる。とくに魚についての知識は豊富で 100 種類以上の魚を区別することができるという者もいる。ただ、自然資源については、近年の急激な開発により、激減していることも明らかになった。

近年、県内にできたベトナム資本のプランテーション農園への出稼ぎが増加し村民の現金収入は急増したとともに、電気の開通や携帯電話の普及によって現金支出も増加している。オートバイ

の普及、テレビや携帯電話などの電化製品の導入などによって、生活様式は変化しつつあり、ラオス式（主要民族であるラオ族）の食事が流行しはじめている。

本研究で注目した水田漁撈については、以下のことが明らかになった。オイ族で固有の水田漁撈システムである Loum-pa は、水田中に直径 4 ~ 10m の穴を掘り、壁を板で覆って補強するとともに上部に柴をいれたものであり、雨期の小規模な洪水を利用した集魚装置であるとともに乾期には養殖池となる。乾期の終わりに水をすべて出して魚をとりつくし、内部を補強する。世帯当たり平均 2 ha（7 枚）の水田に対して平均 5 個の Loum-pa を所有。Loum-pa があることにより、単位面積あたりの収量は減少するが、Loum-pa の数は年々増加し続けている。水田の枚数と Loum-pa の数、水田面積と Loum-pa の数の関係はほぼ正の相関があること、水田数も Loum-pa も数も増加し続けていることから、現在においても水田漁撈が重要なものとして位置づけられていることが推察できる。

水田や Loum-pa の相続や、維持管理の方法、共有田や共有の Loum-pa などについても調査を行い、オイ族のあいだでは漁撈と結びついた水田が重要な意味をもつことが示された。

また、水田漁撈については、以下のような慣習があり、これらの慣習が、栄養状態にも影響を与えているのではないかと推察できる。

- ・Loum-pa の中には神がいるので手入れしないと病気になる
- ・建設中に動物の肉を食べると魚が捕れなくなる
- ・死者が出た家にはその日に行くと魚がとれなくなる（狩猟は可）
- ・多くの人に手伝ってもらって建設すると大漁になる

・Loum-pa を作ったら魚を持ち帰り、家で儀式と労働者の酒宴をする。その夜に今後について夢のお告げがある

・グループ共有田は貧しい人に貸すが、その中のLoum-pa はグループ全体が利用する。(政府からの客人のもてなしなど)

・妊娠、出産時の食禁忌に魚は含まれない

栄養状態については、高齢者の生活機能や栄養状態は、コミュニティによって有意な差があることが身体機能の調査や慎重・体重・上腕の測定によって明らかになった。その背景には、コミュニティごとに民族が異なり、生産活動や摂取してきた食物に違いがあることが大きいと考えられた。特に興味深いのは、食禁忌の多いラオス南部において、近隣に居住するブラオ族の高齢者の栄養状態が食禁忌の影響を受けているのに対してオイ族は食禁忌の影響はなく、その理由の一つとして、上述したような水田漁撈の慣習(魚に対する禁忌が存在しないこと)が考えられた。

以上の結果のうち、水田漁撈については、今後その複合的土地利用の意味を考察し、アジア農村社会学会にて発表するとともに、論文としてまとめる予定である。また、洪水常習地域である調査地では、2009年、2013年夏の大規模洪水の混乱で役場のコンピュータや書類のデータが散在し、データの収集が2013年3月にずれこんだ。今後それらを参照しながら県内における調査村の位置づけなどを行う予定である。

5、主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

Joweria Nambooze, Miho FUJIMURA, Tsukasa INAOKA, Nutritional status and functional capacity of community-dwelling elderly in southern Laos, (査読有), Environmental Health and Preventive Medicine vol.19-97, 2014, 143-150

Joweria Nambooze, Miho FUJIMURA, Tsukasa INAOKA, The impact of 2009 typhoon Ketsana on nutritional status of children below five years in Southern Laos, (査読有), The Japanese Journal of Health and Human Ecology 79(5): 2013, 112-123

[学会発表](計3件)

Miho Fujimura・Tsukasa Inaoka, Paddy field fishing as self-sufficiency system in southern Laos, 5th conference of Asian Rural Sociology Association, 2-5/09,2014 (予定)、Vientiane, Lao PDR

藤村美穂・辻貴志・大坪竜太 生計維持システムからみたラオス南部の水田漁撈、民族衛生学会、2013年11月15-16日、佐賀大学

辻貴志・Joweria Nambooze・藤村美穂、ラオス南部の水田漁撈-loum pa の構造と機能、生態人類学会(第17回)2012年3月26日、兵庫県姫路市

[図書](計0件)

[その他](計0件)

6、研究組織

(1)研究代表者

藤村 美穂 (Fujimura Miho)

佐賀大学・農学部・准教授

研究者番号：60301355

(2)研究分担者

稲岡 司 (Inaoka Tsukasa)

佐賀大学・農学部・教授

研究者番号：60176386

(3)連携研究者

辻 一成 (Tsuji Kazunari)

佐賀大学・農学部・准教授

研究者番号：00253518

研究協力者

辻 貴志 (Tsuji Takashi)

国立民族学博物館・外来研究員